



科学技術部
マスコットキャラクター
ウミナ君

私たち科学技術部は三重県松阪市の松名瀬干潟で活動しています。

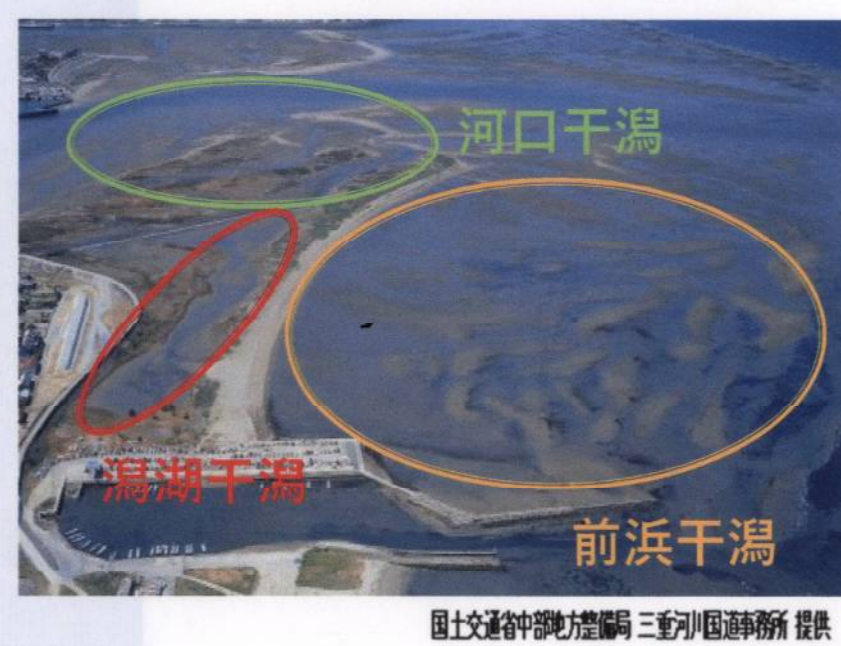
干潟って？

干潟とは...

干潟は潮の満ち引きによって水面から出たり隠れたりする砂泥地。
1日2回、6時間ごとに満潮と干潮が入れ替わる。

・松名瀬干潟

干潟のの典型である3つの干潟が全てそろっている。
→全国的にもとても貴重！
絶滅が危惧されている生物も多く観察される。



潟湖干潟 (かたこ) こうはいしっち
海から分けられた湿地(後背湿地) 陸地に近く埋め立てられやすく、特に貴重。

・生息している生物、植物。



(河口干潟)

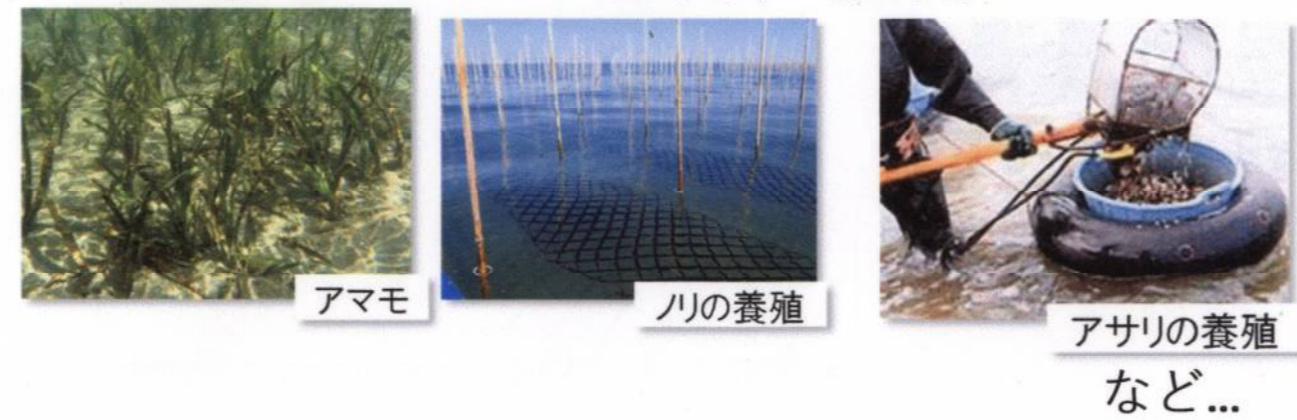
河口に砂や泥がたまるところ。地形が変わりやすい。

・生息している生物。



前浜干潟 (まへはま) 海に面している。漁業や潮干狩りが行われている。

・生息している生物、植物

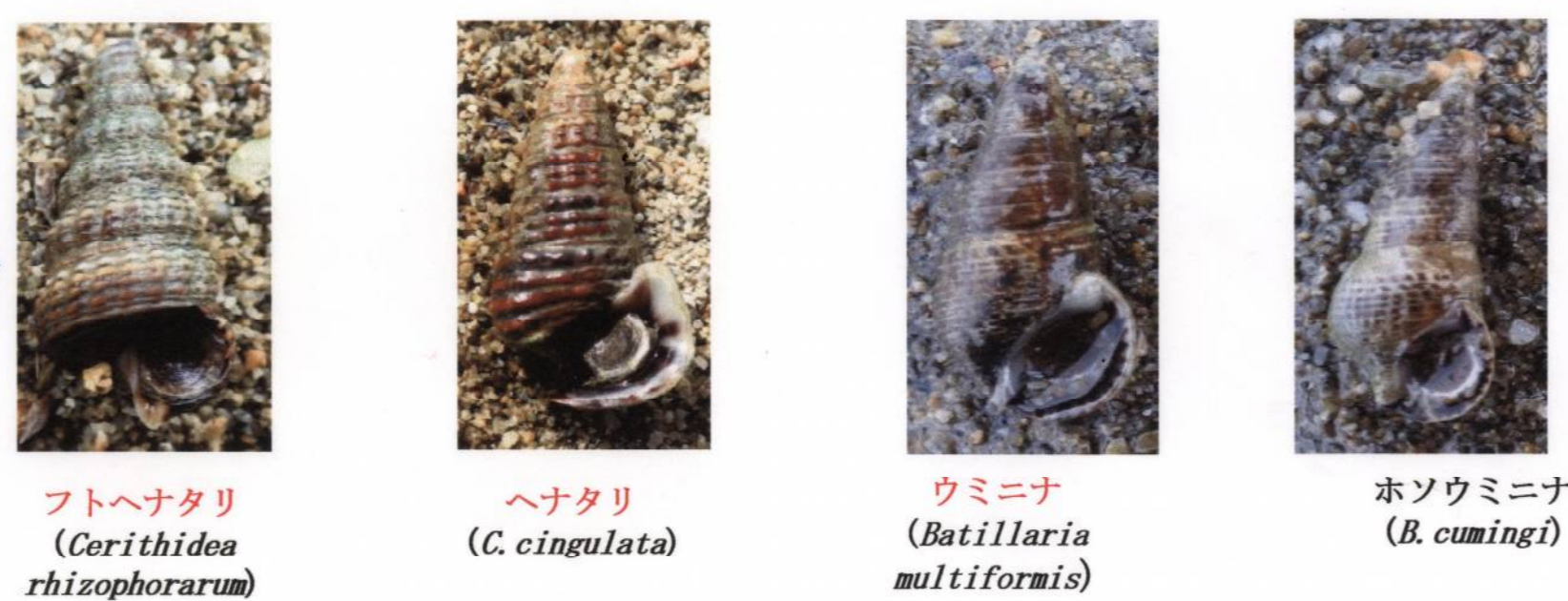


松名瀬での活動

科学技術部は、主に四種類のウミナ類を対象として生物相調査を毎月一回行っている。
この調査は先輩方から後輩に受け継ぐ形で続いていて今年で10年目になる。

・調査対象であるウミナ類

ホソウミナを除いて準絶滅危惧種



・調査手順

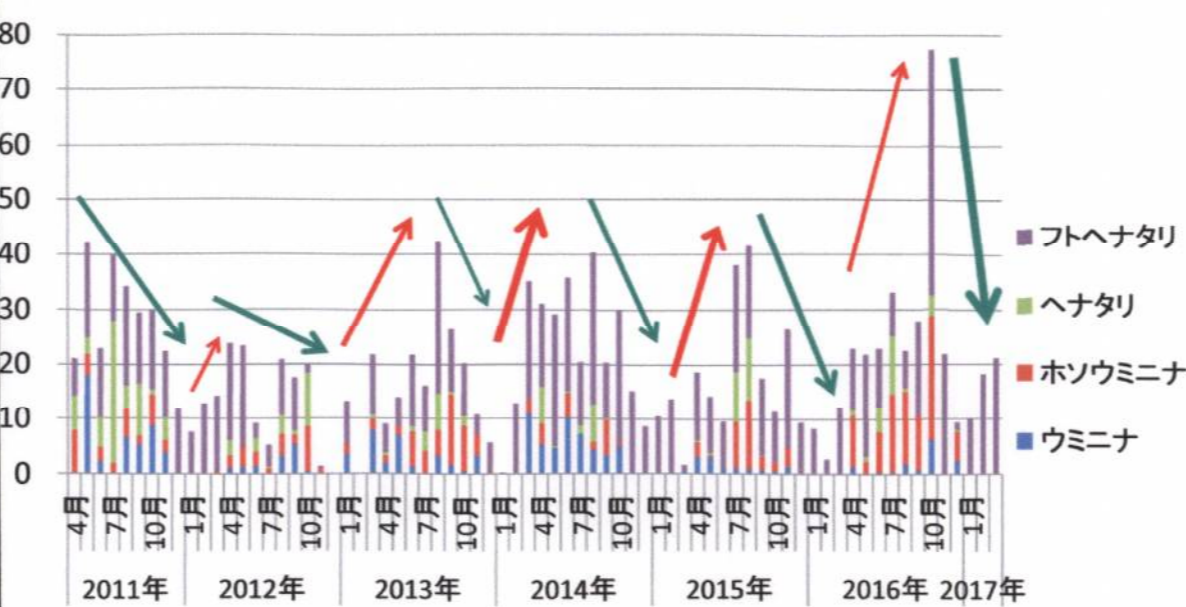
各干潟の環境の違う場所に2地点を設置。

各地点ごとに5か所、50cm×50cm枠の中の地表の生物を採集。

直径15cm、深さ20cmの砂泥を2mmメッシュのふるいにかけて地中の生物を採集。

生物の種類と数、大きさを測り記録する。

ちくせき 蓄積したデータからわかること。



ウミナ類は、夏にかけて増え冬にかけて減っている。

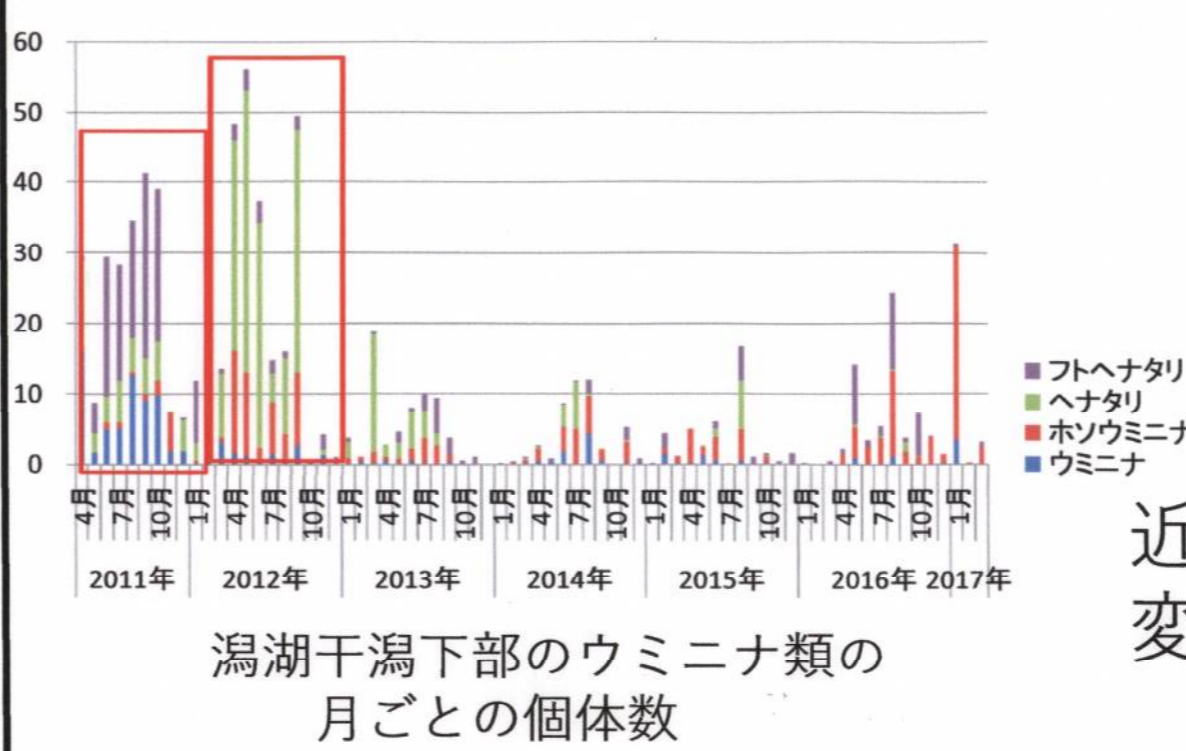
冬に死んでしまった？

しかし...

春にも大きな個体が確認できている。産卵は初夏に行われる。(風呂田ほか, 2002)

冬に死んだとは考えにくい。

潮の満ち引きが停滞する冬に調査区域外へ移動した？



2012年2月頃からウミナ・フトヘナタリ→減少
ホソウミナ・ヘナタリ→増加

何故？

近くで護岸工事をしていたことが判明。変化した環境はヨシ原の消失のみ。

フトヘナタリが減少したのはヨシ原の消失が原因と考えられる。ほかの種に関しては飼育実験を行い研究中。

環境教育活動

僕たちは松名瀬干潟の豊かな環境を多くの人に知ってもらうためいろんなところで活動内容や松名瀬の現状をお伝えしています。これまでに19か国、のべ4000人以上に実施しました。

・松名瀬干潟での環境教育



・地元小学校への出前授業



松名瀬干潟で拾った貝殻と、メダケ、森のマツボックリなどを使って、海と森のつながりを感じてもらおう。

・いろいろなイベントの参加



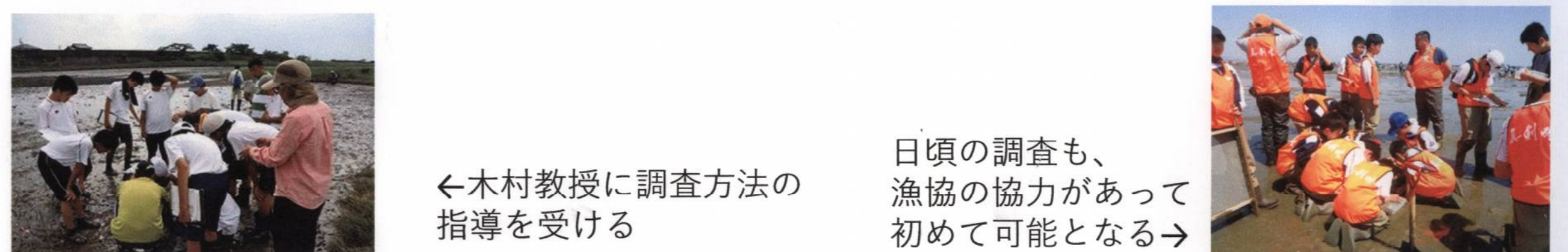
・学会などでの研究発表



松名瀬干潟で拾った貝殻と、松阪木綿でキーホルダーを作ってもらい、海を身近に感じてもらう。

様々な人とのかわり

海の研究活動では、三重大学の教授の方や、漁協の方。環境教育の場面では、地元の学校の先生や、児童館の方。さらには、博物館の方々など多くの人の協力を得て私たちの研究が可能だったり、多くの方々に知っていただくことができます。



このようにいろいろな人の協力があるから、私たちの活動ができるということをお忘れずに、これからも一生懸命活動していきたい。

こどもエコクラブ登録簿 (2020年度) (横造紙サイズ用)

クラブ(団体・グループ)所在地: 三重 都道 松阪 市 区 町 村

クラブ(団体・グループ)名: 三重中学校・高等学校 科学技術部

(全国事務局連絡: 個人用印で記入)

(2020年度 応募作品) □幼児クラブの審査を希望